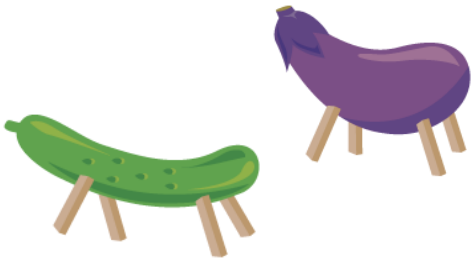
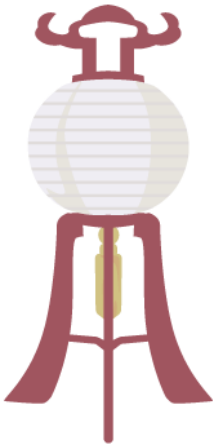
お盆にむけて





お盆とは…

　お盆は旧暦の7月15日を中心に行われる先祖供養の儀式で、先祖の霊があの世から帰ってきて、家族と共にひとときを過ごし再びあの世に帰っていく、という日本古来の祖霊信仰と仏教が結びついてできた行事です。

　お盆は正式には盂蘭盆会（うらぼんえ）といいます。
盂蘭盆とは、古いインドの言葉「ウラバンナ」の音訳で、「逆さまに吊るされたような苦しみ（地獄の苦しみ）」という意味です。この地獄の苦しみを受けている人々に対して、この世から供養することの功徳によって、その苦しみを救いたいという願いを込めて営まれるのが盂蘭盆会です。
　お盆には、先祖の霊が一年に一度家に帰ってくるといわれており、その霊を迎え、安らかに成仏してほしいという祈りと、生前のご恩に対する感謝の気持ちを込めて供養します。
故人が亡くなって四十九日の忌明け後、初めて迎えるお盆を新盆（初盆）といいます。
新盆は、故人の霊が初めて帰ってくるお盆なので、家族や親族のほか、故人と親しかった方を招いて、特に手厚く供養を営みます。菩提寺の住職に来ていただき、法要をお願いする場合も多いです。
　現在、日本各地で行われているお盆の行事は、古くからの農耕儀礼や祖霊信仰などが融合して伝わった風習が多く、地域や宗派によってさまざま違いがあります。
その意味では、これが絶対正しいお盆の迎え方という決まりはありませんが、一般の家庭では、家族や親戚が集まり先祖の霊を迎え、今の自分があるのは先祖のおかげと感謝供養する行事として行われています。

市兵衛

お盆の行事や準備するもの

8月（7月）のお盆

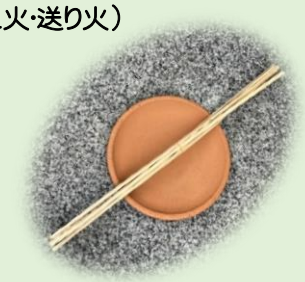
8月(7月)

- 飾り付け・準備
- 13日 盆の入り(迎え火)
- お盆期間中
  - 住職の棚経
  - お寺参り(盂蘭盆法要)
  - 親戚や知人のお参り
- 16日 盆の明け(送り火)
- 片付け

お 盆 の 準 備（やっておきたい事）

- 盆棚(精霊棚)、お供え物等の準備
- 新盆見舞い者への返礼品の用意
- お盆提灯の準備(白提灯等)
- お仏壇やお墓の掃除

白提灯(迎え火・送り火)



オガラと焙烙(迎え火・送り火)

お 盆 の 行 事

迎え火　白提灯に灯をともし、家の門口や玄関先で焙烙(ほうろく)あるいは素焼きの皿にオガラを入れて火を焚き、祖先の霊をお迎えします。

棚経・盂蘭盆会　新盆では、ご自宅に住職が来て棚経を行う事が多いです。お寺に集まって盂蘭盆会の法要を営む場合もあります。

送り火　オガラや新盆ならば白提灯を焼いて、家に迎えた精霊にお帰り頂きます。

かつては盆棚のお飾りやお供え物をまとめて、近くの川や海に流しました。(精霊流し)
※現代では川や海の汚染の問題もあるので、流すことはせずに、地域でまとめて処理をしたり、ゴミとして出す事がほとんどとなりました。

盆棚（精霊棚しょうりょうだな）の飾り例

写真は一例です。地域やお家により飾り方が異なる場合がございます。

市兵衛仏壇センターでは、各種お盆用品や提灯を取り揃えております。

盆棚(精霊棚しょうりょうだな)の準備

①机(段)の上にマコモで編んだゴザを敷きます。

②仏壇から、ご本尊・お位牌・香炉・燭台・花立て・おリンを移動します。

十三佛や名号軸などの掛け軸があれば盆棚の後ろに掛けます。

新盆の場合は、ご遺影写真を飾ります。

③ナス・キュウリをさいの目に切り、洗い米を混ぜた「水の子」(諸説ありますが、施餓鬼、無縁仏に供える、牛馬が食べるとも言われています。)を蓮の葉を模した紙皿に乗せてお供えます。

④ナス・キュウリで牛と馬を作って供えます。(わらで牛・馬を模して作った既製品もあります。)

⑤お供え物は季節の果物、野菜、団子、菓子などを供えます。

お盆中は、精進料理(供養膳)でご先祖の霊をもてなします。

⑥盆提灯を飾ります。

盆棚周辺に提灯をお供えして、賑やかにします。

新盆の場合は、白提灯を玄関先や軒下に飾ります。

(初めて帰ってくる故人の霊が迷わない為の目印として飾ります。)

※以上は一例です。それぞれのお家や地域で飾り方や風習は異なる事がございます。